

アメリカ伝道庁創立 90 周年

天理教ニューヨークセンター所長
福井 陽一 Yoichi Fukui

アメリカ大統領選挙

2024 年、アメリカ社会にとって最大の関心事の一つがアメリカ大統領選挙の行方だ。今年 11 月 5 日の大統領選本選に向けて、民主・共和両党の候補者指名争いが始まっているが、4 年前と同じくバイデン対トランプという対決になりそうだ。ただいつもと異なる点は、トランプ氏は現在 4 つの事件で起訴され、91 の罪に問われていることだ。それにも関わらず支持層の共感を集め高い支持率を維持している。これは、おそらく大統領時代の経済、外交、移民対策などの実績への信頼と現政権への失望が強いからではないかと感じている。アメリカはもとより日本や世界の情勢に大きく影響を及ぼすこの選挙に対して、人々は緊張し心配しながら見守っている。

不法移民問題

2020 年の大統領選で勝利したジョー・バイデン大統領はメキシコとの国境地帯での移民融和政策を取ったため、不法に入国する人の数が急激に増えている。この 3 年間で約 1,000 万人の不法入国があったとされているが、実際にはその倍の 2,000 万人ぐらいが入ってきていると言われている。国境に隣接するテキサス州やフロリダ州は、それらの大量の移民をニューヨーク市などの都市部に移送しているため、ニューヨークでも大きな問題になってきている。

ニューヨーク市長のエリック・アダムス市長は、最初は不法移民を歓迎していたが、現在はシェルターに収容しきれず、緊急事態宣言を発し、連邦政府の支援を求めている。ホテルや学校がシェルターになっているところもあり、地域住民や父兄の反対が高まっている。ニューヨークの観光名所タイムズスクエアにある移民保護施設の前で警官が移民達に集団で襲撃されるという事件も起き、治安問題も表面化している。

アメリカ伝道庁創立 90 周年

そのような激動の年であるが、来る 6 月 30 日にアメリカ伝道庁創立 90 周年記念祭が行われる。アメリカ伝道庁は、今から 90 年前の 1934 年に設立された。設立のきっかけとなったのは、前年 1933 年の 2 代真柱のアメリカ巡教だった。アメリカ、ハワイ、カナダにある 25 カ所の教会、伝道所を参拝になり、教友は勇み、教勢は一挙に燃え上がった。その様子を見られて、2 代真柱は、布教の中心となる機関を設置すべき旬の到来を察知し、翌年アメリカ伝道庁を設置する旨を発表して、辻豊彦を初代庁長に任命した。

2 代真柱の著書『アメリカ百日記』の序文の中では、次のように述べられている。「親神様は旬の到来によって、人間心では考えも及ばぬ事を、常に私達の眼前にお示しになっている。此の渡米の如きもその一つであると私は深く信じている。アメリカに対する親神様の思召は恐らく人間心の考えも及ばぬ程切実に急ぎ込まれているのだろう。私は渡米前よりも帰国後に於いて、一層その思いを強くした。アメリカは私



【レストラン「ベニハナ」1 号店のお祓い】

達の勤め場所の延長であると言う様な気えしている。」

それ以来 11 代に及ぶ歴代庁長を芯として、第 2 次世界大戦をはさんで数えきれない苦勞の道中を教祖ひながたの道を目標に、世界たすけに挺身された先人方の真実の働きによる 90 年の活動に育まれていることは忘れてはならない。記念祭に向けてニューヨークセンター管内から 90 名の参拝目標を立てたが、現在それ以上の人々が参拝を予定している。多くの教友と参拝することで、喜びを分かち合いたい。

ニューヨークセンター 50 周年

思えば伝道庁創立 40 周年に向けての記念事業の一環として、ニューヨークに伝道拠点を設置するというのが伝道庁の打ち出したビジョンだった。その契機となったのは、1971 年の中山善備 3 代真柱のニューヨーク来訪であった。現地の天理教関係者が 30 名以上集まり、真柱の誕生日のお祝いを兼ねた歓迎会が開催された。この真柱の来訪がきっかけとなって、ニューヨークセンターの設置の機運が高まり、具体化し、1977 年 1 月にアメリカ伝道庁の出張所として現在地に設立された。3 年後の 2027 年には設立 50 周年を迎える。50 周年を目指しての 3 年千日、新たな動きが始まっている。

昨年末、文化協会でのイベントで不思議な出会いがあった。ニューヨーク布教の先駆者の一人である吉田進氏がちょうど 60 年前の 1964 年にニューヨーク・マンハッタンでレストラン「ベニハナ」1 号店のお祓いを行ったが、その後このレストランはアメリカ日本食ブームの立役者となり、米国内で 80 店舗、全世界で 110 店舗にまで拡大した。その創業者ロッキー青木氏の夫人が文化協会のイベントに来訪し、文化協会の弓削マイケル主任と共に初めてお会いした。弓削主任は吉田進氏の孫にあたる。予期せぬ出会いお互いに感激し、60 年前の吉田進氏のこつこつ勤められた苦勞の道を彷彿させられた。

歴史を振り返り、先人の足跡を見つめ直して、アメリカ伝道庁 90 周年、ニューヨークセンター 50 周年の節目に向かってさらに一段と成人の道を歩めるように努力したいと思う。